

廃棄物対策と3R推進に向けた環境学習

『ダンボール箱を使った生ごみ堆肥化講座』開催

町では循環型社会を形成するため一般廃棄物対策における3Rの取り組みを推進しています。今回、ごみの減量化・再利用に向けた環境学習として「ダンボール箱生ごみ堆肥化」に関する講座を開催しました。

- 日 時 平成22年10月14日(木) 午前10時～
- 場 所 社会教育総合センター集会室
- 参加者 女性学級受講者25名
- 講 師 循環ネットワーク北海道 運営委員 木村雅治氏



上富良野町の各家庭から出される生ごみは、H21年度は約652トンで、町全体のごみ量(3,290トン)の約2割を占めています。この生ごみは富良野市にある富良野地区環境衛生センターに運ばれ、バーク(樹木の皮)と混合して発酵処理を行い堆肥化されています。(※堆肥は市販されています。)

この生ごみは、家庭においても身近な材料(ダンボール箱など)を使い、ちょっと手間をかけることで堆肥を作ることが出来ます。

今回、自ら実践している木村さんから、ダンボール箱の実物やスライドを使いながら、自らの体験談も交えわかりやすく講義を行っていただきました。

ダンボール箱生ごみ堆肥化の流れ(講義内容から大まかなものを抜粋しました)

◆用意するもの◆

- ダンボール箱(堆肥化容器)2箱…10kgのみかん箱くらいの大きさ
- 基材(初めに入れておく微生物のすみか)…ピートモス、もみがらくん炭を半々に混ぜたもの15%
- 箱をのせる台…角材(5-10cm×35cm、2本)、木片など。べた置きすると通気性が悪く、箱が壊れたり、床を傷めることもある。
- かくはん用の道具…しよもじ、へら、ショベル、厚手のゴム手袋など
- 棒状の温度計(100℃計)があれば



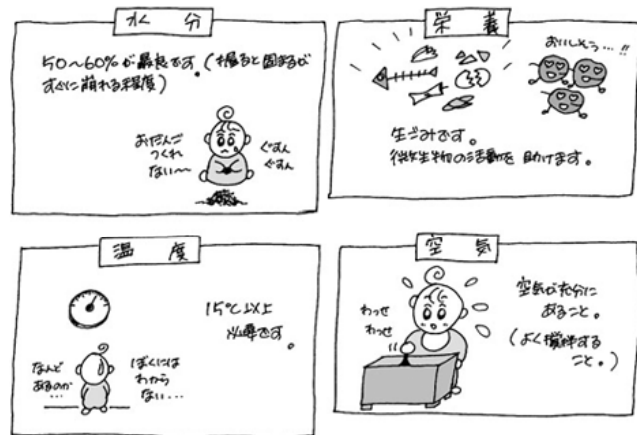
◆基材について◆

- ピートモス…草木やコケ類などの植物が堆積し、腐植・泥炭化したもの。保水性が高く、孔隙性に富み、微生物の住家に適している
- もみがらくん炭…もみ殻を炭にしたもの。隙間が多く微生物の住家に適している。



◆はじめよう◆

- ダンボール箱に基材を入れる。乾燥している場合は水分を調整。
- 置き場所は 15℃以上の環境の場所。(室内が望ましい) 通気性を良く。雨・雪対策ができればベランダなどの屋外でも良い。
- 生ごみを入れる (新しいうちに小さく切つて)。よくかき混ぜる。フタをする。水分と温度管理 (微生物の活動)。
- ダンボール箱が使えなくなったとき (一般的に 3-6 ヶ月) に生ごみの投入を止め、2 ヶ月程度寝かせて畑へ



木村さんが参加する「循環 (くるくる) ネットワーク北海道」とは…

1995年に設立(事務所:札幌市民活動サポートセンター内)。北海道のすぐれた自然を保全し、より良い環境を次の世代に引き継ぐため、廃棄物の減量化と資源の有効利用を図り、循環型社会の形成に向けた幅広い活動を行っています。機関紙発行、ホームページなどの情報提供、学習会やシンポジウムなどの普及啓発、生ごみなどの部会活動が行われています。

詳しくはホームページ (<http://www.kuru-kuru.org/>) をご覧ください。

